

・島前高校ヒトツナギ部

私たちが島を訪れてから最初に関わらせていただいたのが、島前高校ヒトツナギ部とヒトツナギに協力してくださっている島民の方々との交流会だった。ヒトツナギとは学生主体で企画した観光プランで、島前の魅力を存分に味わってもらい、島に友達を作ることを目的とした中高生向けのイベントである。先輩の一人が島前出身でヒトツナギに携わっており、後輩の一人もまた高校時代ヒトツナギに捧げていたことがあり、最近のヒトツナギの問題点について大学生の目線からアドバイスするという目的で協力させていただいた。初めにヒトツナギ部の顧問の先生方とのミーティングを行った。そこであげられた主な問題点として、ヒトツナギを学生たちが企画するにあたって、これまでやられてきたヒトツナギにとらわれすぎてしまい、オリジナリティが少なく形式化してきてしまっているということだった。また、形式化してしまっただけで協力してくださる島民の方々も固定してきてしまい、多くの島民とコミュニケーションが取れておらず感謝の気持ちも薄れてしまっていた。これらの問題はヒトツナギ部員のみで何度も話し合いが進められてきたが、部員だけでの話し合いでは解決しきれないところもあり、島民の方々と交えて交流会を開くことになったということだった。ミーティングの翌日、交流会の準備を行うのと同時に、島前高校ヒトツナギ部の部員と顔合わせをした。自己紹介を聞いていると部員全体が11人のうち、8人が一年生で、二年生はわずかに3人だったことに驚いた。高校一年生で観光プランを考えて実践することは相当難しいことなので、単純に感心した。そのこともあり、どんなに大人びた高校生が来るのだろうかと思っていたのだが、一人ひとり話してみるといい意味で皆等身大の高校一年生だった。自己紹介と交流会の準備を終え先輩のお母さんが作ってくださったサザエカレーを部員と一緒に食べ、リラックスした雰囲気を作ったところで島民の方々がいらっしゃり交流会がスタートした。島民の方々からは厳しい意見が多数出ていたが、どこか部員に期待している様子がかげがえした。それを真剣に受け止め今後の糧にしようとしている部員の姿も、これからのヒトツナギが楽しみになるくらいの期待感を持たせるものだった。

私自身がこの交流会に参加して良かったこととしては、まず島民の雰囲気を知ることができたことだ。ヒトツナギを良くしようと、ほんの1時間程度の話し合いのためにわざわざ島をわたって来てくださるその島を愛する精神にはとても驚かされた。私も地元である調布が大好きだが、1時間のために家は出たくないと思ってしまう。島民の方々の愛には遠く及ばないなと感じた。生まれ育った島に活気を絶やさまいとする島の人々の熱い気持ちが見て取れた。また、今回のヒトツナギは島民の方々からしたら失敗に終わったわけだが、それに対して怒るわけではなく、今後どうしていったらよいのかを部員と真剣に話し合えるという点で寛大さも感じた。ヒトツナギに関わることは決して楽なことではないだろうし、お金もかかってしまう。その苦労を無駄にされたら誰だって怒るはずだが、島の人たちはそれを受け止め、すでに次のヒトツナギを見据えていた。その寛大さと優しさに私は心を打たれた。

ヒトツナギの部員といろいろ話し合うことができたのも私にはとてもいい経験となった。

私はまだ大学生なので普段は教えられる立場だが、今回は教える立場として協力させていただいた。私は勉強の場において教える側は初めてのことだったので、正直高校生を前にして結構緊張していたが、彼らが素直になんでも聞いてくれたので、こちらも変に身構えず、普段後輩などの年下の人と接するようにすればよいのだなと感じた。また、高校生のうちから観光プランを学生主体で考えて実践するヒトツナギ部員一人ひとりの意識の高さは、見ていると私もいろんなことにチャレンジしてみようという気にさせてくれた。あの部員の雰囲気に触れることは大学生としても、モチベーションの向上や自分を見直すきっかけとなるのではないだろうか。

交流会において自分自身良くなかった点は、大学生は話し合いに参加して自由にアドバイスするという形だったがゆえに、拘束力のない立場だったので自由をはき違えてしまったことだ。今回の話し合いは三部構成で、毎回プレゼン→話し合いという流れだった。プレゼンの内容は毎回同じだったので途中から聞いているのに疲れてしまい少し休憩してしまったりしていた。交流会が終わった後、先輩に休憩していたことを指摘されて、いくら自由とはいえ楽をするのが自由というわけではないと考えさせられた。今後気を付けていきたいと思う。また、単純にアドバイスの内容が薄くわかりづらいといった点も、今後勉強していきスキルアップを目指したいと感じた。

改善点を挙げるとすれば、今回大学生側のやらなくてはいけないことがはっきりと決まっていたわけではなく、皆思い思いの行動をとってしまったため、まとまりがなかったのも、大学生側にももう少し細かいスケジュールを組ませて一つの目標に向かって全員が行動できるようにすればよいと感じた。

・西ノ島中学校

今回訪れた西ノ島中学校は、宿泊させていただいた「まつのや」から徒歩 5 分ほどの場所にある木造の学校で、懐かしさを感じさせられる雰囲気の良いところだった。私たちが協力させていただいたのは中学 3 年生を対象にしたキャリア教育の一環で、様々な職種の方々に学校に招いて中学生側からインタビューをするといった授業の練習相手ということだった。初めに三年生の担任の先生に説明を受け、その後学校見学させていただいた。学生たちは皆きちんと挨拶してくれていて、礼儀などの教育が行き届いているのだなと感じた。見学が終わると授業がはじまった。

・海士町夢ゼミ

海士町では高校生のうちから将来について考える最先端の教育が実施されており、そのうちのひとつが今回参加させていただいた夢ゼミである。夢ゼミは海士町にある隠岐國学習センターという場所で週一回行われている。これも初めに今回夢ゼミの司会者を務める方(調布に住んでいた)と海士町出身の男子と私たちが自己紹介を兼ねたミーティングを行った。その後続々と高校 1 年生たちが集まってきたが、中にはヒトツナギ部員の子たちが何人かいたので雑談していると夢ゼミが始まった。今回の夢ゼミのテーマが自分のやりたいこと

ということで、「want」「can」「need」をそれぞれ書き出してもらいその3つの共通点が自分のやりたいことにつながっているのではないかという内容だった。私はサポート役に回っていたのだが、自分自身に置き換えて考えてみても想像以上に難しい内容で、非常に考えさせられた。単純に勉強させていただいた。

私がこの合宿に参加した理由は、とりあえずいろんな地域を訪れてその地域の特色や雰囲気を感じることができたらいいなと考えていた時にお誘いがあったので、島前に行き、町の様子を見てみたいと思ったからである。

今回は東京の新宿から夜行バスで13時間とフェリー2時間の長旅だった。正直島前に行くだけでとても疲れてしまったのだが、西ノ島について海を見ると非常にきれいな緑色をしていて少し癒された。西ノ島の雰囲気としては、海のすぐ近くに山があり民家がちらほらで、この島は小さいんだなというのがわかるのだが、内陸部を見ると堂々とした山がそびえたっており不思議な安心感がある場所だった。今回ヒトツナギ交流会、西ノ島中学校インタビュー、海士町学習センター夢ゼミと協力させていただいたが、すべてに共通するのは私たちがサポート役だったということである。すべてのプログラムで主役は中・高校生で、私たちは進行のサポートや生徒へのアドバイスが主な仕事だった。私はサポート側に回ることが初めてだったので、最初は何をやってあげるべきか全然分からなかった。しかし、初めに行ったヒトツナギ交流会の終盤あたりから普通に生徒たちと仲良くすれば色々やりやすいなと感じ始めた。そこからはいかに初対面で打ち解けられるかというところに重点をおいてサポートしていった。一番手ごたえがあった打ち解け方としては、少し踏み込んだ質問をすることだった。例えば恋に関する質問だ。恋愛は歳が離れていても共通の盛り上がる話題なので、質問すると皆恥ずかしそうにたくさん話してくれた。私はこの武器を携えて4日間を乗り切った。しかし、島前の高校生は勉強している内容が大学レベルなので、生徒と仲良くするだけではサポートできない部分があった。そのような部分は単純に私の勉強不足で生徒たちに申し訳ないなと感じた。学習している側は分からないということが通用するが、学習させている側はそれではいけないということを知った。普段は私たちも学習している側なので、今回の島合宿では指導する側の心境や方法を学べたのは非常に良かった。

今後島には定期的に訪れたいなと思わされる合宿だった。島にいる中高生の学習内容もさることながら、特に彼らの学習意欲の高さにはとても驚かされた。今後の成長がとても楽しみではあるが、自分も勉強しないとすぐに追い抜かされてしまうなと少し不安である。島前高校卒業の男子二人は夢ゼミの際少し関わったが、二人とも自分の考えや目標を堂々と話しており、末恐ろしい人たちだなと感じた。しかし、彼らを見ていると自分自身も勉強のモチベーションが上がるので、そのような交流はお互いを刺激しあうことができるので大事だと思う。これからもそのような卒業生を輩出していこう島前高校には興味が尽きないので今後ともぜひ島前に訪れたいと考えている。